

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】令和3年4月30日(2021.4.30)

【公表番号】特表2020-511140(P2020-511140A)

【公表日】令和2年4月16日(2020.4.16)

【年通号数】公開・登録公報2020-015

【出願番号】特願2019-550815(P2019-550815)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/62 (2006.01)  
 C 1 2 N 15/12 (2006.01)  
 C 1 2 N 15/13 (2006.01)  
 C 0 7 K 19/00 (2006.01)  
 C 0 7 K 14/745 (2006.01)  
 C 0 7 K 16/28 (2006.01)  
 C 1 2 N 15/63 (2006.01)  
 C 1 2 N 15/861 (2006.01)  
 C 1 2 N 15/864 (2006.01)  
 A 6 1 P 35/00 (2006.01)  
 A 6 1 P 35/02 (2006.01)  
 A 6 1 P 35/04 (2006.01)  
 A 6 1 K 38/36 (2006.01)  
 A 6 1 K 41/00 (2020.01)  
 A 6 1 K 39/395 (2006.01)  
 A 6 1 K 35/76 (2015.01)  
 A 6 1 K 35/761 (2015.01)  
 A 6 1 K 48/00 (2006.01)  
 A 6 1 K 47/68 (2017.01)  
 A 6 1 K 47/64 (2017.01)

【 F I 】

C 1 2 N 15/62 Z N A  
 C 1 2 N 15/12  
 C 1 2 N 15/13  
 C 0 7 K 19/00  
 C 0 7 K 14/745  
 C 0 7 K 16/28  
 C 1 2 N 15/63 Z  
 C 1 2 N 15/861 Z  
 C 1 2 N 15/864 1 0 0 Z  
 A 6 1 P 35/00  
 A 6 1 P 35/02  
 A 6 1 P 35/04  
 A 6 1 K 38/36  
 A 6 1 K 41/00  
 A 6 1 K 39/395 N  
 A 6 1 K 39/395 T  
 A 6 1 K 35/76  
 A 6 1 K 35/761  
 A 6 1 K 48/00  
 A 6 1 K 47/68

A 6 1 K 47/64

## 【手続補正書】

【提出日】令和3年3月12日(2021.3.12)

## 【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

免疫複合体タンパク質を含む組成物であって、前記免疫複合体タンパク質が、第V I I因子と複合化されたI g G 3免疫グロブリンのF c領域を含む、組成物。

【請求項2】

( i ) 前記第V I I因子が第V I I因子の軽鎖であり、任意で、前記第V I I因子の軽鎖が、ヒト又はマウスの第V I I因子の軽鎖を含むか、

( i i ) 前記第V I I因子が完全長であり、任意で、前記第V I I因子が、K 3 4 1 Aにおける変異を含むか、

( i i i ) 前記組成物が、組織因子( T F ) 発現細胞を標的とするか、

( i v ) I g G 3 が、R 4 3 5 Hにおける変異を含むか、又は、

( v ) 光感受性物質が、前記免疫複合体タンパク質と結合され、任意で、前記光感受性物質が、光線力学色素を含む、請求項1に記載の組成物。

【請求項3】

前記免疫複合体タンパク質が、配列番号2、4、6、又は8のうちの1つを含む、請求項1に記載の組成物。

【請求項4】

核酸であって、配列番号1、3、5、または7を含む、核酸。

【請求項5】

請求項1～3のいずれか一項に記載の免疫複合体タンパク質をコードする発現ベクターであって、

任意で、前記発現ベクターが、複製欠損アデノウイルスベクターであるか、又は、

任意で、前記発現ベクターが、アデノ随伴発現ベクターである、発現ベクター。

【請求項6】

免疫複合体タンパク質を含む組成物であって、前記免疫複合体タンパク質が、第V I I因子と複合化されたI g G 1及びI g G 3免疫グロブリンのハイブリッドのF c領域を含む、組成物。

【請求項7】

( i ) 前記第V I I因子が第V I I因子の軽鎖であり、前記第V I I因子の軽鎖が、ヒト又はマウスの第V I I因子の軽鎖を任意で含むか、

( i i ) 前記第V I I因子が完全長であるか、

( i i i ) 前記第V I I因子が、K 3 4 1 Aにおける変異を含むか、

( i v ) 前記組成物が、組織因子( T F ) 発現細胞を標的とするか、

( v ) I g G 3 が、R 4 3 5 Hにおける変異を含むか、又は、

( v i ) 光感受性物質が、前記免疫複合体タンパク質と結合され、任意で、前記光感受性物質が、光線力学色素を含む、請求項6に記載の組成物。

【請求項8】

a ) 前記第V I I因子ペプチドと複合化された前記I g G 3免疫グロブリンの前記F c領域が、配列番号2のアミノ酸配列を含み、前記第V I I因子と複合化された前記I g G 1免疫グロブリンの前記F c領域が、配列番号14のアミノ酸配列を含むか、

b ) 前記第V I I因子ペプチドと複合化された前記I g G 3免疫グロブリンの前記F c

領域が、配列番号 2 のアミノ酸配列を含み、前記第 V I I 因子と複合化された前記 I g G 1 免疫グロブリンの前記 F c 領域が、配列番号 1 6 のアミノ酸配列を含むか、

c) 前記第 V I I 因子ペプチドと複合化された前記 I g G 3 免疫グロブリンの前記 F c 領域が、配列番号 2 のアミノ酸配列を含み、前記第 V I I 因子と複合化された前記 I g G 1 免疫グロブリンの前記 F c 領域が、配列番号 1 8 のアミノ酸配列を含むか、

d) 前記第 V I I 因子ペプチドと複合化された前記 I g G 3 免疫グロブリンの前記 F c 領域が、配列番号 6 のアミノ酸配列を含み、前記第 V I I 因子と複合化された前記 I g G 1 免疫グロブリンの前記 F c 領域が、配列番号 1 6 のアミノ酸配列を含むか、

e) 前記第 V I I 因子ペプチドと複合化された前記 I g G 3 免疫グロブリンの前記 F c 領域が、配列番号 6 のアミノ酸配列を含み、前記第 V I I 因子と複合化された前記 I g G 1 免疫グロブリンの前記 F c 領域が、配列番号 1 8 のアミノ酸配列を含むか、

f) 前記第 V I I 因子ペプチドと複合化された前記 I g G 3 免疫グロブリンの前記 F c 領域が、配列番号 4 のアミノ酸配列を含み、前記第 V I I 因子と複合化された前記 I g G 1 免疫グロブリンの前記 F c 領域が、配列番号 1 0 のアミノ酸配列を含むか、

g) 前記第 V I I 因子ペプチドと複合化された前記 I g G 3 免疫グロブリンの前記 F c 領域が、配列番号 4 のアミノ酸配列を含み、前記第 V I I 因子と複合化された前記 I g G 1 免疫グロブリンの前記 F c 領域が、配列番号 1 2 のアミノ酸配列を含むか、

h) 前記第 V I I 因子ペプチドと複合化された前記 I g G 3 免疫グロブリンの前記 F c 領域が、配列番号 8 のアミノ酸配列を含み、前記第 V I I 因子と複合化された前記 I g G 1 免疫グロブリンの前記 F c 領域が、配列番号 1 0 のアミノ酸配列を含むか、又は、

i) 前記第 V I I 因子ペプチドと複合化された前記 I g G 3 免疫グロブリンの前記 F c 領域が、配列番号 8 のアミノ酸配列を含み、前記第 V I I 因子と複合化された前記 I g G 1 免疫グロブリンの前記 F c 領域が、配列番号 1 2 のアミノ酸配列を含む、請求項 6 又は 7 に記載の組成物。

**【請求項 9】**

分泌される分子として、請求項 6 ~ 8 のいずれか一項に記載の免疫複合体タンパク質をコードする発現ベクターであって、

任意で、前記発現ベクターが、複製欠損アデノウイルスベクターであるか、又は、

任意で、前記発現ベクターが、アデノ随伴発現ベクターである、発現ベクター。

**【請求項 10】**

医薬組成物であって、

請求項 1 ~ 3 又は請求項 6 ~ 8 のいずれか一項に記載の組成物と、薬学的に許容される担体と、を含む、医薬組成物。

**【請求項 11】**

疾患の治療又は予防を必要とする対象においてそれを行う方法に使用され、

前記方法が、有効量の請求項 1 ~ 3 若しくは請求項 6 ~ 8 のいずれか一項に記載の組成物を前記対象に投与することを含む、請求項 1 ~ 3 若しくは請求項 6 ~ 8 のいずれか一項に記載の組成物、又は請求項 10 に記載の医薬組成物。

**【請求項 12】**

前記疾患が、組織因子 ( T F ) 発現に関連し、任意で、前記疾患が、血管新生腫瘍、血栓形成、関節リウマチ、子宮内膜症、又は黄斑変性を伴う病理学的血管新生を含む、請求項 11 に記載の使用のための組成物又は医薬組成物。

**【請求項 13】**

前記疾患が、 T F を発現するマクロファージに関連する、請求項 11 に記載の使用のための組成物又は医薬組成物。

**【請求項 14】**

前記疾患が、エボラ若しくは H I V などのウイルス感染であるか、又は、

前記疾患が、アテローム性動脈硬化である、請求項 11 に記載の使用のための組成物又は医薬組成物。

**【請求項 15】**

請求項 1 に記載の組成物が、がんの転移を予防又は治療することができる、請求項 1 1 に記載の使用のための組成物又は医薬組成物。